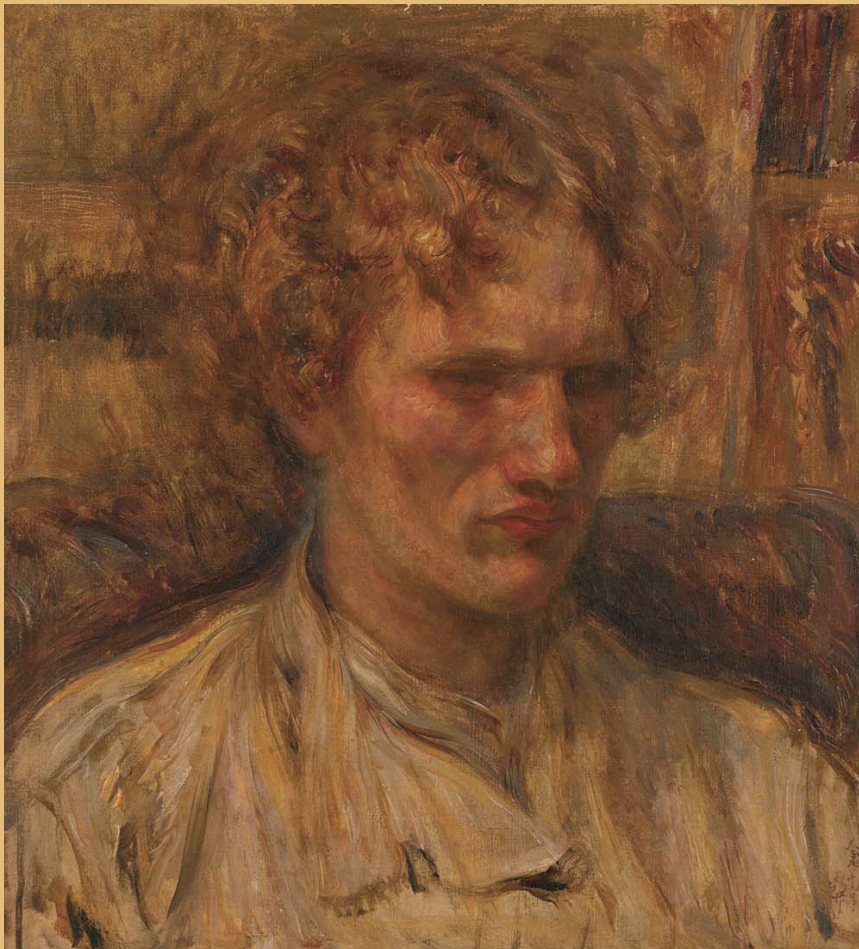


独立行政法人国立美術館
東京国立近代美術館

Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo

概要



令和3年度

ご挨拶

東京国立近代美術館は新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策のため、来館者や美術館スタッフの健康と安全を確保することを第一として、オンラインでの日時指定予約システムの導入による人数制限をはじめ、来館者全員のサーモグラフィカメラ等による検温やマスクの着用のお願い、展示室内の換気や館内のこまめな消毒など、感染予防に対する緊張感をもった美術館運営を心がけております。

今年の臨時休館の間、美術館のスタッフは再開を目指して懸命に力を注いできました。このような状況でも、できることはあるはずと、オンラインやソーシャルメディアを通じて美術館の活動を発信してきました。現在では、オンラインで対話鑑賞プログラムを実施するとともに、ガイドスタッフによる所蔵作品紹介動画や映像作品の手話・バリアフリー字幕版、などを公開しております。美術をはじめとする文化芸術には大きな力があり、いつも変わらず私たちに寄り添い、励まし、希望や安らぎを与えてくれる、かけがえのない存在であるとともに、社会を活性化させるものでもあると私たちは信じています。

1977(昭和52)年に国の重要文化財・旧近衛師団司令部庁舎での開館以来42年間という長きに亘り皆さまに愛されてきました工芸館は、昨年10月、石川県金沢市に移転・開館いたしました。本年4月より正式名称「国立工芸館」の名の下で、日本海側初の国立美術館として工芸館の歴史に新たな1ページを刻みます。今後とも一層のご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

当館は、1952(昭和27)年、日本で最初の国立美術館として誕生しました。我が国における芸術文化の振興並びに美術振興の中核的な拠点として、美術に関する作品等を広く国民の皆さまに紹介するとともに、充実したナショナルコレクションの形成、保管、継承を主なミッションとしています。世界の近代美術の潮流の中で、日本の近代美術の系譜をたどり、明治から現代までの日本の美術の流れを俯瞰できるのが当館の大きな特徴です。特定のテーマや切り口で構成された企画展も年に数回開催し好評を得ております。

今後とも、来館者やスタッフの健康の安全安心に留意しながら、「新しい生活様式」の中で、美術館をこれまで以上に楽しんでいただけるよう尽力して参る所存です。一日も早い感染の終息を願いながら、スタッフ一同、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

令和3年4月

独立行政法人国立美術館
東京国立近代美術館
館長 加藤 敬



目次

概要	1
東京国立近代美術館 主な活動	2
国立工芸館 主な活動	4
略年表	6
その他	8

表紙

中村彝《エロシェンコ氏の像》1920年(油彩)
(1977年6月11日 重要文化財指定)

概要

東京国立近代美術館は皇居に近い東京都千代田区北の丸公園に本館と、石川県金沢市に工芸館を有し、広く近代美術への関心を喚起するための事業を展開しています。

当館は、日本で最初の国立美術館として、昭和27年(1952年)12月1日に中央区京橋に開館しました。かねてより待望されていた、同時代の美術をいつでも見ることのできる国立の展示施設として、旧日活本社ビルを建築家の前川國男氏の設計により改装し、その活動をスタートさせたのです。

その後、所蔵作品の増加と企画展の拡充等により、コレクションの展示が次第に制約されるようになったことから、美術館の移転が検討されていたところ、石橋正二郎評議員より美術館建築の寄附申し入れがあり、その厚意によって、昭和44年(1969年)、千代田区北の丸公園の現在地に、建築家谷口吉郎氏設計による新館が開館しました。また、昭和52年(1977年)には北の丸公園内の旧近衛師団司令部庁舎(重要文化財)に工芸館が開館しました。なお、工芸館は平成28年(2016年)に政府関係機関移転基本方針により、石川県への移転が決定し、令和2年(2020年)2月に移転に向け、東京での活動を終了し、同年10月25日に石川県金沢市に移転・開館しました。

一方、組織としては、東京国立近代美術館は平成13年(2001年)4月1日より、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館を構成する美術館となりました。現在、独立行政法人国立美術館は上記4館に、平成19年(2007年)に開館した国立新美術館、平成30年(2018年)に当館より独立した国立映画アーカイブを加えて、わが国における美術振興の中心的拠点として活動を展開しています。



京橋時代の美術館



北の丸公園時代の工芸館
現在の名称は「東京国立近代美術館分室」

独立行政法人国立美術館ホームページ <http://www.artmuseums.go.jp/>

本館

本館の建築は、長年にわたり多くの方々に親しまれてきましたが、築30年を機に坂倉建築研究所の設計により大規模な増改築が施されました。

展示室の拡張、閲覧サービスのできるアートライブラリの整備、レストランやミュージアムショップの新設、休憩スペースの増設など、鑑賞環境の整備と充実ならびに耐震性の強化を図った工事は、平成13年(2001年)9月に竣工しました。そして平成14年(2002年)1月、記念展「未完の世紀—20世紀美術がのこすもの」をもって、新たな活動を再開しました。

また平成24年(2012年)には開館60周年を迎え、所蔵品ギャラリーの大規模なリニューアルを行いました。



外観 撮影:上野則宏

国立工芸館

工芸館は、東京国立近代美術館の分館として、昭和52年(1977年)に東京の皇居北側に位置する北の丸公園に開館した、日本を中心とする近・現代の工芸・デザイン作品を専門とする美術館です。令和2年(2020年)に、日本海側初の国立美術館である通称「国立工芸館」となり、石川県金沢市へ移転・開館。令和3年(2021年)には通称を正式名称に改め、工芸文化の発信拠点としての新たなスタートを切りました。

建物は、明治期に建てられ、平成9年(1997年)に国登録有形文化財となった、旧陸軍第九師団司令部庁舎及び旧陸軍金沢偕行社を、国立工芸館移転・活用のために石川県と金沢市が整備し、移築・復元したものです。



外観 撮影:太田拓実

展覧会の開催

20世紀以降の我が国の美術の多様な展開を歴史的に跡づけた所蔵作品展と、様々なテーマや切り口で構成された特別展及び共催展を開催しています。

所蔵作品展「MOMAT コレクション」(所蔵品ギャラリー、4F-2F)では、日本有数の近代美術コレクションを公開しています。関連する海外の作品を交えながら、20世紀初頭から今日までの日本の美術の流れを概観できるよう展示しています。重要文化財15点(2点は寄託作品)を含む、13,000点を超えるコレクションの中から毎会期約200点を選び、ほぼ時代ごとに章分けして構成しています。年数回の大きな展示替を行いながら、特定の作家やテーマに沿った特集展示や小企画を開催して、多様な角度から所蔵作品に光をあてています。平成24年(2012年)にはリニューアルを行い、内容、休憩コーナーを含むスペースともにさらに充実しました。

特別展及び共催展は、1階の企画展ギャラリーで特定のテーマに基づいて国内外の美術作品を展示するもので、年3～4回開催しています。



所蔵品ギャラリー 3F「日本画」コーナー



4F 休憩コーナー「眺めのよい部屋」

開催中及び開催予定の展覧会についてはこちら↓
<https://www.momat.go.jp/am/exhibition/>

過去に行われた展覧会についてはこちら↓
<https://www.momat.go.jp/am/exhibition/archive/>

図書・資料収集

アートライブラリは、国内外の画集、写真集、展覧会カタログ、各種美術参考書などを約15万冊、美術雑誌を約5千タイトル所蔵しており、一般の方々による閲覧が可能となっています。また、国内の美術図書館が多数参加している美術図書館連絡会(ALC: The Art Library Consortium)に加盟し、同会が提供している美術図書館横断検索(ALC search)(<https://alc.opac.jp/search/all/>)では、当館の所蔵資料も検索することができます。



アートライブラリ

アートライブラリについてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/am/library/>

教育普及活動

企画展にあわせて講演会やシンポジウム、ギャラリートークなどを開催するほか、所蔵作品展でも、解説ボランティアによる毎日の所蔵品ガイドや学芸員による月1回程度のキュレータートークなどを行っています。学校団体に対しては、目的や特性に応じたきめ細やかな鑑賞プログラムや、未就学児を含むファミリーに向けたワークショップも提供しています。近年の新しい取り組みとしては、英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」や、ビジネスパーソンに向けての鑑賞ワークショップ、オンラインでの対話鑑賞や遠隔授業を行っています。



未就学児とその家族のための「おやこでトーク」

教育普及活動についてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/am/learn/>

調査研究活動

東京国立近代美術館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しています。また、その成果を、展覧会カタログ、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録、活動報告などを通じて発信しています。

調査研究についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/am/research/>

作品・画像の貸出

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

また、申し込み制により、当館が所蔵する写真作品を直接閲覧できる「プリントスタディ(写真作品閲覧制度)」を実施しています。

所蔵作品の画像貸出についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/ge/reproduction/>

プリントスタディについてはこちら → <https://www.momat.go.jp/am/collection/printstudy/>

美術作品の収集・保管

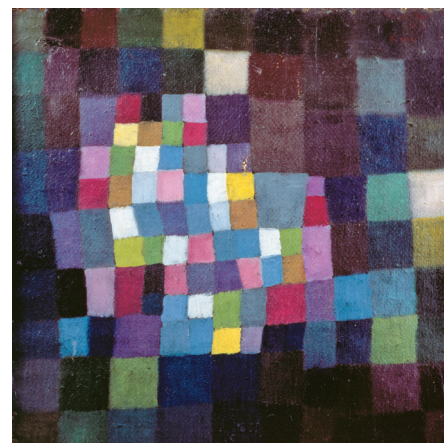
およそ明治40年(1907年、日本で最初の官設の公募展、文部省美術展覧会が開催された年)から今日までの、約100年間の日本と海外の美術作品を収集しています。現在、日本画、洋画、版画、水彩・素描、彫刻(立体造形)、写真、映像などの各分野にわたって13,000点以上を収蔵しています。

所蔵美術作品数(令和2年度末現在)

種別	点数
日本画	854
油彩その他	1,290
版画	3,060
水彩・素描	4,135
彫刻(立体造形)	480
書	21
写真	2,947
映像	75
美術資料	687
合計	13,549



上村松園《母子》1934年(日本画)
(2011年6月27日重要文化財指定)



パウル・クレー《花ひらく木をめぐる抽象》1925年(油彩)

所蔵作品についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/am/collection/>

展覧会の開催

所蔵作品展、特別展または共催展を、年4～5回ほど開催します。

所蔵作品展では、陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたる約4,000点の所蔵作品の中から、100点前後の作品を選び、歴史や特定のテーマに沿った展示を行います。また、東京国立近代美術館の所蔵作品展「MOMAT コレクション」やギャラリー4での特集展示においても、定期的に工芸・デザイン作品を展示します。

特別展及び共催展では、特定のテーマに基づいて国内外の工芸・デザイン作品を展示します。



エントランス 撮影:太田拓実



松田権六の仕事場 撮影:太田拓実

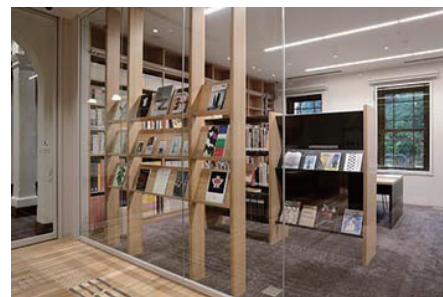
開催中及び開催予定の展覧会についてはこちら↓
<https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/>

過去に行われた展覧会についてはこちら↓
<https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/archive/>

図書・資料収集

国立工芸館アートライブラリでは、主に近・現代の工芸・デザインに関する作品集、展覧会カタログ、各種美術参考図書などを約3万冊、美術雑誌を約1,500タイトル所蔵しており、一般の方々への閲覧に供しています。

アートライブラリについてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/cg/visit/library/>



国立工芸館アートライブラリ 撮影:エス・アンド・ティ・フォト

教育普及活動

新型コロナウイルス感染症対策を一つの契機として、これまでのプログラムの経験を踏まえながら、多様な鑑賞機会の提供を検討し、ギャラリートークに代わる会場ガイドやセルフガイドをオンラインで提供しています。また作家の工房訪問や「タッチ&トーク」等のコンテンツを日本語と英語で制作して配信。コロナ禍の終息を見据えながら、今後は対面型とオンライン配信の両面で教育普及活動を進める予定です。

教育普及活動についてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/cg/learn/>



英語タッチ&トーク(オンライン配信)

調査研究活動

国立工芸館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しており、その成果を、東京国立近代美術館と協同し、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録等を通じて発信しています。また、特別展及び共催展の開催に伴い、展覧会カタログを出版します。

作品・画像の貸出

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

所蔵作品の画像貸出についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/ge/reproduction/>

美術作品の収集・保管

国立工芸館では、明治以降今日までの日本と海外の工芸及びデザイン作品を収集しています。特に、多様な展開を見せた戦後の作品の収集に重点を置いています。陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたって約4,000点を収蔵しています。

所蔵美術作品数（令和2年度末現在）

種別	点数
陶磁	1,076
ガラス	199
漆工	374
木工	88
竹工	50
染織	510
人形	106
金工	452
その他の工芸	13
工芸資料	110
工業デザイン	192
グラフィック・デザイン	821
合計	3,991



鈴木長吉《十二の鷹》(部分) 1893年(金工)
(2019年7月23日 重要文化財指定)



板谷波山《葆光彩磁牡丹文様花瓶》1922年(陶磁)

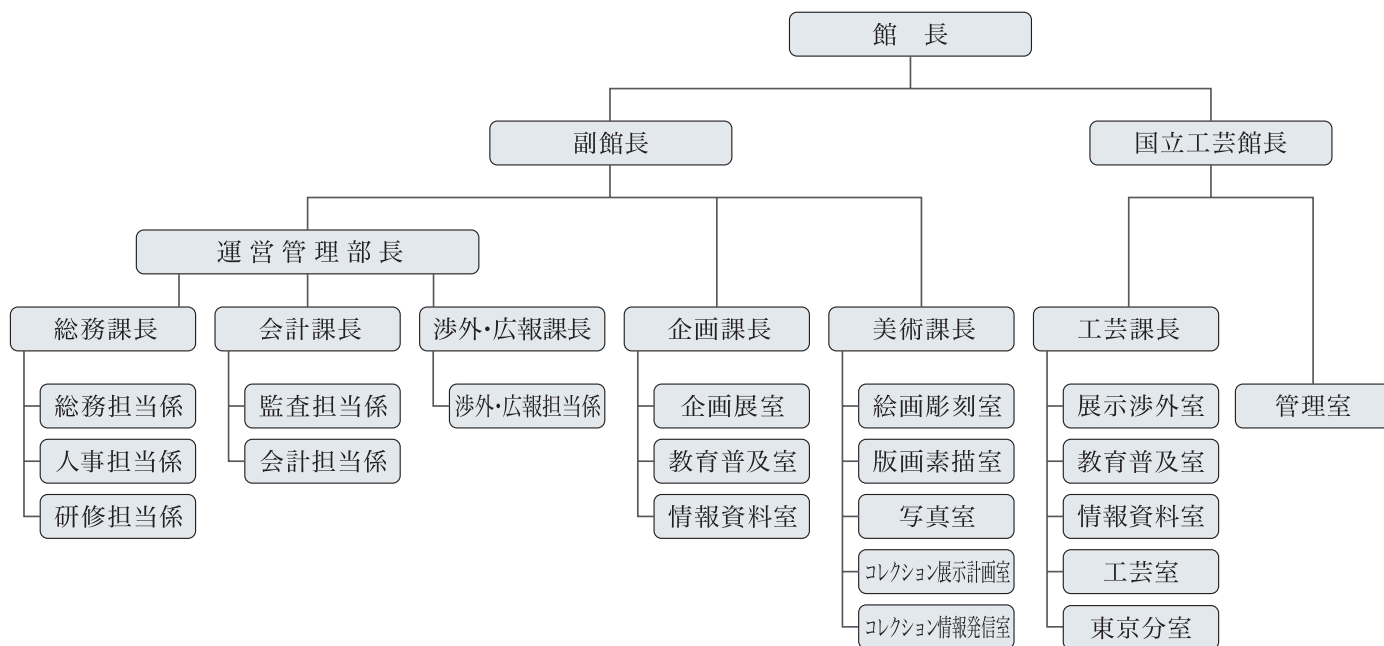
所蔵作品についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/cg/collection/>

略年表

昭和26年(1951年)		文部省予算に国立近代美術館設置のため1億円が計上された。また、同年に国立近代美術館設置に必要な諸事項を調査審議するため、文部省に国立近代美術館設置準備会が置かれた。
	12月20日	国立近代美術館設置準備会は本館開設について文部大臣に答申した。
昭和27年(1952年)	3月	日活本社ビルを8,300万円で購入し、1,700万円で建築家前川國男の設計により、改装工を行うことになった。
	6月6日	文部省設置法が改正(昭和27年法律第168号)され国立近代美術館が設置された。
	8月1日	国立近代美術館長事務取扱として寺中作雄(文部省社会教育局長)が任命された。
	10月1日	初代館長に岡部長景(元文部大臣)が任命された。
	12月1日	開館。これを記念して第1回展「日本近代美術展：近代絵画の回顧と展望」(12月1日～28年1月25日)を開催した。
昭和35年(1960年)	1月22日	岡部長景が館長を辞任し、後任には稲田清助(前文部事務次官)が任命された。
昭和38年(1963年)	3月1日	文部省設置法施行規則の改正(昭和38年文部省令第2号)により国立近代美術館京都分館が設置され、分館長に今泉篤男(前国立近代美術館次長)が任命された。
昭和41年(1966年)	1月11日	国立近代美術館の移転の候補地を探していたが、閣議了解「皇居周辺北の丸地区の整備について」により、同地区に移転することが可能となった。
	2月16日	稲田清助が館長を辞任し、後任には小林行雄(元文部事務次官)が任命された。
昭和42年(1967年)	1月27日	石橋正二郎評議員から東京都千代田区代官町2番地に、鉄筋コンクリート建地上3階、地下2階、予定価額約12億円の建物を新築・寄贈したいとの申し出があった。
	5月31日	文部省設置法(昭和24年法律第146号)が改正(昭和42年法律第17号)され、6月1日から国立近代美術館は、東京国立近代美術館となり、国立近代美術館京都分館は、独立して京都国立近代美術館となった。
昭和43年(1968年)	6月15日	文部省設置法が改正(昭和43年法律第99号)され、東京国立近代美術館は文化庁の附属機関となった。
昭和44年(1969年)	4月1日	文部省設置法施行規則が改正(昭和44年文部省令第13号)され東京国立近代美術館にフィルムセンターが設置された。
	5月7日	石橋正二郎評議員の寄贈による東京国立近代美術館の竣工寄贈式が行われた。
	6月11日	常陸宮同妃両殿下をお迎えして、新館の開館式を行った。これを記念して「現代世界美術展：東と西の対話」(6月12日～8月17日)を開催した。
昭和45年(1970年)	3月	終戦時アメリカに接収された絵画153点が送還(無期限貸与)された。
昭和47年(1972年)	7月1日	小林行雄が館長を辞任し、後任には岡田譲(前文化庁文化財保護部文化財鑑査官)が任命された。
	9月12日	千代田区北の丸公園所在の旧近衛師団司令部庁舎は、重要文化財として指定のうえ東京国立近代美術館分室として活用をはかるため存置すべき建物に含めるとの閣議了解がなされた。
	10月2日	旧近衛師団司令部庁舎は、重要文化財に指定された。
昭和48年(1973年)	1月8日	旧近衛師団司令部庁舎(大蔵省普通財産)は、東京国立近代美術館分室として所管換えされ、文化庁は、同建物の文化財保存修理工事に着手した。なお、同工事は昭和53年3月に完了した。
昭和51年(1976年)	1月16日	岡田譲が館長を辞任し、後任には安達健二(前文化庁長官)が任命された。
昭和52年(1977年)	4月18日	文部省設置法施行規則が改正(昭和52年文部省令第10号)され、事業課は美術課に名称変更し、新たに工芸課が設置された。
	11月14日	文部大臣、文化庁長官臨席のもとに工芸館開館式を挙行了。これを記念して「現代日本工芸の秀作」展(11月15日～53年3月19日)を開催した。
昭和54年(1979年)	4月4日	文部省設置法施行規則が改正(昭和54年文部省令第11号)され、美術課を企画・資料課及び美術課に分離改組した。
昭和56年(1981年)	3月6日	昭和54年3月17日以来本館前庭地下に建設中であった新収蔵庫(990㎡)が竣工した。なお、工事中、先土器時代以降近世に至る遺跡が発見され、調査委員会を設けて発掘調査を行った。
昭和57年(1982年)	5月21日	当館開館30周年にあたり、所蔵作品による記念展を次のとおり開催した。 ・近代日本の美術1945年以後(5月21日～7月11日、本館) ・近代日本の美術1945年以前(9月18日～10月31日、本館) ・近代日本の工芸(5月21日～7月11日、工芸館)
昭和59年(1984年)	7月1日	文部省組織令が改正(昭和59年政令第227号)され、東京国立近代美術館は、文化庁の施設等機関となった。
昭和61年(1986年)	4月1日	安達健二が館長を辞任し、後任には犬丸直(元文化庁長官)が任命された。
昭和63年(1988年)	8月1日	犬丸直が館長を辞任し、後任には大崎仁(前文化庁長官)が任命された。

平成2年(1990年)	7月5日	大崎仁が館長を辞任し、後任には植木浩(前文化庁長官)が任命された。
平成7年(1995年)	3月31日	昭和62年度より実施していた美術館の大規模改修工事(外壁、空調設備、電気設備等)が終了した。
平成8年(1996年)	7月31日	植木浩が館長を辞任し、後任には面崎清久(前国立教育会館長)が任命された。
平成10年(1998年)	6月17日 12月11日	平成10年度補正予算(第1号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築工事に関する経費が計上された。 平成10年度補正予算(第3号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成11年(1999年)	7月6日 7月12日 12月9日	面崎清久が館長を辞任し、後任には辻村哲夫(前文部省初等中等教育局長)が任命された。 東京国立近代美術館(本館)増改築工事のため、休館となる。 平成11年度補正予算で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成13年(2001年)	4月1日 9月26日	京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館の一機関となる。当館本館内に国立美術館本部が置かれる。 平成11年8月5日に着手した本館改修工事が完了し、9月26日に文部科学大臣、大臣政務官及び文化庁長官臨席のもと竣工式を挙行了した。
平成14年(2002年)	1月16日 8月29日 10月12日	開館記念展「未完の世紀:20世紀美術がのこすもの」を開催した。 天皇皇后両陛下が「小倉遊亀展」をご観覧のため、行幸啓された。 当館開館50周年にあたり、本館で「コレクションのあゆみ」展を開催した。
平成16年(2004年)	9月10日	天皇皇后両陛下が「琳派RIMPA」展をご観覧のため、行幸啓された。
平成17年(2005年)	7月5日	天皇皇后両陛下が「小林古径展」をご観覧のため、行幸啓された。
平成18年(2006年)	5月3日 12月6日	皇后陛下が「藤田嗣治展」をご観覧のため、行啓された。 皇后陛下が「ジュエリーの今:変貌のオブジェ」展をご観覧のため、行啓された。
平成19年(2007年)	2月16日 10月6日 10月19日	天皇皇后両陛下が「人間国宝 松田権六の世界」展をご観覧のため、行幸啓された。 工芸館開館30周年にあたり、本館講堂で開館30周年記念式典を行い、工芸館で「工芸館開館30周年記念展」を開催した。 皇后陛下が「平山郁夫:祈りの旅路」展をご観覧のため、行啓された。
平成20年(2008年)	4月1日 7月12日	辻村哲夫が館長を辞任し、後任には青柳正規(独立行政法人国立美術館理事長)が任命された。 青柳正規の後任として、加茂川幸夫(前文部科学省生涯学習政策局長)が館長に任命された。
平成21年(2009年)	9月4日	皇后陛下が「ゴーギャン展」をご観覧のため、行啓された。
平成22年(2010年)	4月11日 9月28日	皇后陛下が「生誕120年 小野竹喬展」をご観覧のため、行啓された。 皇后陛下が「上村松園展」をご観覧のため、行啓された。
平成24年(2012年)	10月16日	当館開館60周年にあたり、本館で「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」を開催した。
平成25年(2013年)	1月10日	天皇皇后両陛下が「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」をご観覧のため、行幸啓された。
平成26年(2014年)	10月8日	天皇皇后両陛下が「菱田春草展」をご観覧のため、行幸啓された。
平成27年(2015年)	9月12日	天皇皇后両陛下が「No Museum, No Life? これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」をご観覧のため、行幸啓された。
平成28年(2016年)	1月1日 4月30日 7月12日	「MOMAT支援サークル」が発足した。 皇后陛下が「安田靉彦展」をご観覧のため、行啓された。 加茂川幸夫が館長を辞任し、後任には馬淵明子(独立行政法人国立美術館理事長)が任命された。
平成29年(2017年)	4月1日	馬淵明子の後任として、神代浩(前文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術総括官兼政策課長)が館長に任命された。
平成30年(2018年)	4月1日 5月13日	東京国立近代美術館フィルムセンターは、独立して国立映画アーカイブとなった。 天皇皇后両陛下が「生誕150年 横山大観展」をご観覧のため、行幸啓された。
平成31年(2019年)	4月1日	神代浩が館長を辞任し、後任には加藤敬(前名古屋大学学長特別補佐)が任命された。
令和2年(2020年)	2月28日 10月25日	東京国立近代美術館工芸館が、移転に向け、東京での活動を終了した。 東京国立近代美術館工芸館が、石川県金沢市に移転・開館した。

組織図



会員制度のご案内

当館では、東京国立近代美術館(MOMAT)をもっとお得に楽しみたい皆さまに、また、MOMAT をご支援くださる皆さまに、以下のメンバーシップ・プログラムをご用意しています。

《個人向け》

- 賛助会(MOMATメンバーズ) 会費:10,000円～300,000円 有効期間:発行日より1年間
- 友の会(MOMATサポーターズ) 会費:5,000円 有効期間:発行日より1年間
- MOMATパスポート 1,200円 有効期間:最初のご利用日から1年間

《企業向け》

- MOMAT支援サークル

施設概要

本館	土地	敷地面積	6,107㎡(環境省及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構から使用承認)
		構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階 地下1階
	建物	建物面積	4,511.62㎡
		延床面積	17,192.6㎡(展示スペース4,459.0㎡ 収蔵スペース1,337.8㎡ その他11,395.8㎡)
分室	土地	敷地面積	4,512.72㎡(環境省から使用承認)
		構造規模	煉瓦造 地上2階
	建物	建物面積	929㎡
		延床面積	1,858㎡
国立工芸館	建物	構造規模	木・鉄筋コンクリート造 地上2階 地下1階
		建物面積	1,427.23㎡
		延床面積	3,072.22㎡(展示スペース703.76㎡ 収蔵スペース484.48㎡ その他1,883.98㎡)

※石川県及び金沢市から無償借受

利用案内

本館 ◎観覧料

区分		一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	個人	500円	250円	無料
	団体	400円	200円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ https://www.momat.go.jp/am/exhibition/			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人が無料になります。

◎開館時間 午前10時～午後5時 [入館は閉館30分前まで] ※開館時間は変更となる可能性があります。

◎休館日 月曜日 [月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌平日休館]、展示替期間、年末年始

ご利用案内についてはこちら→<https://www.momat.go.jp/am/visit/>

年間スケジュールについてはこちら→<https://www.momat.go.jp/am/2021/>

◎所在地・問合せ先

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

TEL 03-3214-2561(代表)

FAX 03-3214-2577(運営管理部) / 03-3214-2576(企画課・美術課)

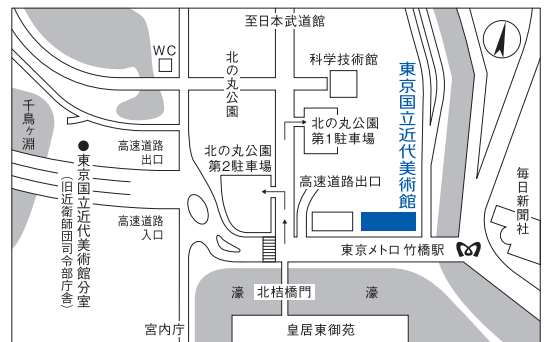
東京メトロ東西線「竹橋駅」下車(1b出口)徒歩3分

詳しくはこちら→<https://www.momat.go.jp/ge/access/>

公式ホームページ→<https://www.momat.go.jp>

公式twitter→<https://twitter.com/MOMAT60th>

公式facebook→<https://facebook.com/momat.pr>



国立工芸館 ◎観覧料

区分	一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	300円	150円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/		

観覧料等についてはこちら→<https://www.momat.go.jp/cg/visit/faq/#section1-2>

◎開館時間 午前9時30分～午後5時30分 [入館は閉館30分前まで]

開館時間等についてはこちら→https://www.momat.go.jp/cg/this_month/today/

◎休館日 月曜日 [月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌平日休館]、展示替期間、年末年始

年間スケジュールについてはこちら→<https://www.momat.go.jp/cg/2021/>

◎所在地・問合せ先

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2

TEL 076-221-2020(代表) FAX 076-221-1969

JR金沢駅兼六園口(東口)から

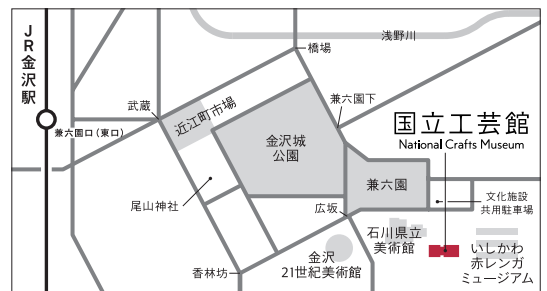
【路線バス】◎3番乗り場:18系統に乗車(約12分)、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分 ◎7番乗り場:どの系統でも乗車可(約11分)、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分 ◎6番乗り場:乗車(「柳橋」行を除く)(約12分)、「出羽町」下車徒歩7分

詳しくはこちら→<https://www.momat.go.jp/cg/visit/>

公式ホームページ→<https://www.momat.go.jp/cg/>

公式twitter→<https://twitter.com/ncm2020>

公式facebook→<https://facebook.com/ncm2020.pr>





The National Museum of Modern Art, Tokyo

MOMAT 支援サークル (MOMAT Corporate Partnership)

東京国立近代美術館は、企業による美術館支援制度を設け、当館の様々な活動にご協力をいただいております。パートナー企業の皆様には、社員証提示による所蔵作品展無料見学などを通し、美術館をお楽しみいただいております。

パートナー企業(令和3年4月現在)

〈プラチナパートナー〉

 **木下グループ** LUXURY CARD™

 **SMBC**  **三井住友銀行**  **東海東京証券**

〈ゴールドパートナー〉

 **三菱商事**  **DNP**  **大日本印刷**  **AVANT**

〈シルバーパートナー〉

 **鹿島建物**  **Marubeni**
丸紅株式会社  **パシフィックコンサルタンツ**

 **JEOL**  **日本電子株式会社**  **SEIKO**  **MS&AD**  **三井住友海上**